

# コナジラミ類情報第1号（トマト）

令和6年8月16日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 育苗中、定植前のコナジラミ防除を徹底しましょう

### 1 発生状況及び今後の発生予測

前作（4月下旬）に行った巡回調査（10ほ場調査）において、コナジラミ成虫の寄生枝率が32.9%（平年8.3%、前年22.2%）で過去10年と比較して最も高い状況でした。

名古屋地方気象台8月15日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高いと見込まれており、本種の発生に好適な状況が続く可能性があります。ほ場での発生状況に注意しましょう。

### 2 防除対策

- 施設内への苗によるコナジラミの持ち込みを防ぐため、表を参考に、育苗中、定植前の薬剤防除を徹底しましょう。
- 施設内への侵入を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張しましょう。設置してあるハウスについても、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無いか点検し、必要に応じて補修しましょう。
- 黄色粘着板や黄色粘着テープを施設内や周辺部に設置し、成虫を捕殺しましょう。
- 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避けましょう。また、薬剤抵抗性の発生リスクが低い気門封鎖剤等を活用しましょう。
- 花粉交配用昆虫を利用する場合は、**影響日数に注意**して農薬を選定しましょう。
- タバココナジラミ（図1）はトマト黄化葉巻病（図2）の病原ウイルスを、コナジラミ類はトマト黄化病の病原ウイルスを媒介します。ウイルスの感染株は見つけ次第抜き取り、適切に処分しましょう。トマト黄化葉巻病については、耐病性品種であっても感染源となり得るため、感受性品種と同様にコナジラミ類の防除を行いましょう。



図1 タバココナジラミ（左：幼虫、右：成虫）



図2 トマト黄化葉巻病の発病株

表 トマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤

農薬名	使用時期	使用回数	IRAC コード
ベストガード粒剤	育苗期、定植時	定植時まで に1回以内	4A
スタークル粒剤	育苗期、定植時	育苗期・定植時 各1回	4A
アルバリン粒剤	育苗期、定植時	育苗期・定植時 各1回	4A
ベリマークSC	育苗期後半～ 定植当日	1回	28
アグリメック <sup>※1</sup>	収穫前日まで	3回以内	6
アニキ乳剤 <sup>※2</sup>	収穫前日まで	3回以内	6
コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	9B
ベネビアOD <sup>※2</sup>	収穫前日まで	3回以内	28
トランスフォームフロアブル <sup>※2</sup>	収穫前日まで	2回以内	4C
ディアナSC <sup>※2</sup>	収穫前日まで	2回以内	5
グレーシア乳剤 <sup>※2</sup>	収穫前日まで	2回以内	30
サフオイル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖） <sup>※3</sup>
サンクリスタル乳剤	収穫前日まで	—	未（気門封鎖） <sup>※3</sup>
ベミデタッチ <sup>※4</sup>	収穫前日まで	—	未（成虫忌避）

花粉交配用昆虫に影響がある剤が含まれるので注意しましょう。

※1 ミニトマトに未登録です。

※2 成虫に対して感受性が低下している事例があるため注意しましょう。

※3 気門封鎖剤は、散布液がコナジラミ類に直接かかるとないと効果がないため、丁寧に散布しましょう。

※4 ベミデタッチは、殺虫効果はなく成虫に対する忌避効果が主体です。7日間隔で複数回散布する必要があります。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示します。

IRAC コードの詳細は、[https://www.jpca.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jpca.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf)を参照しましょう。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。